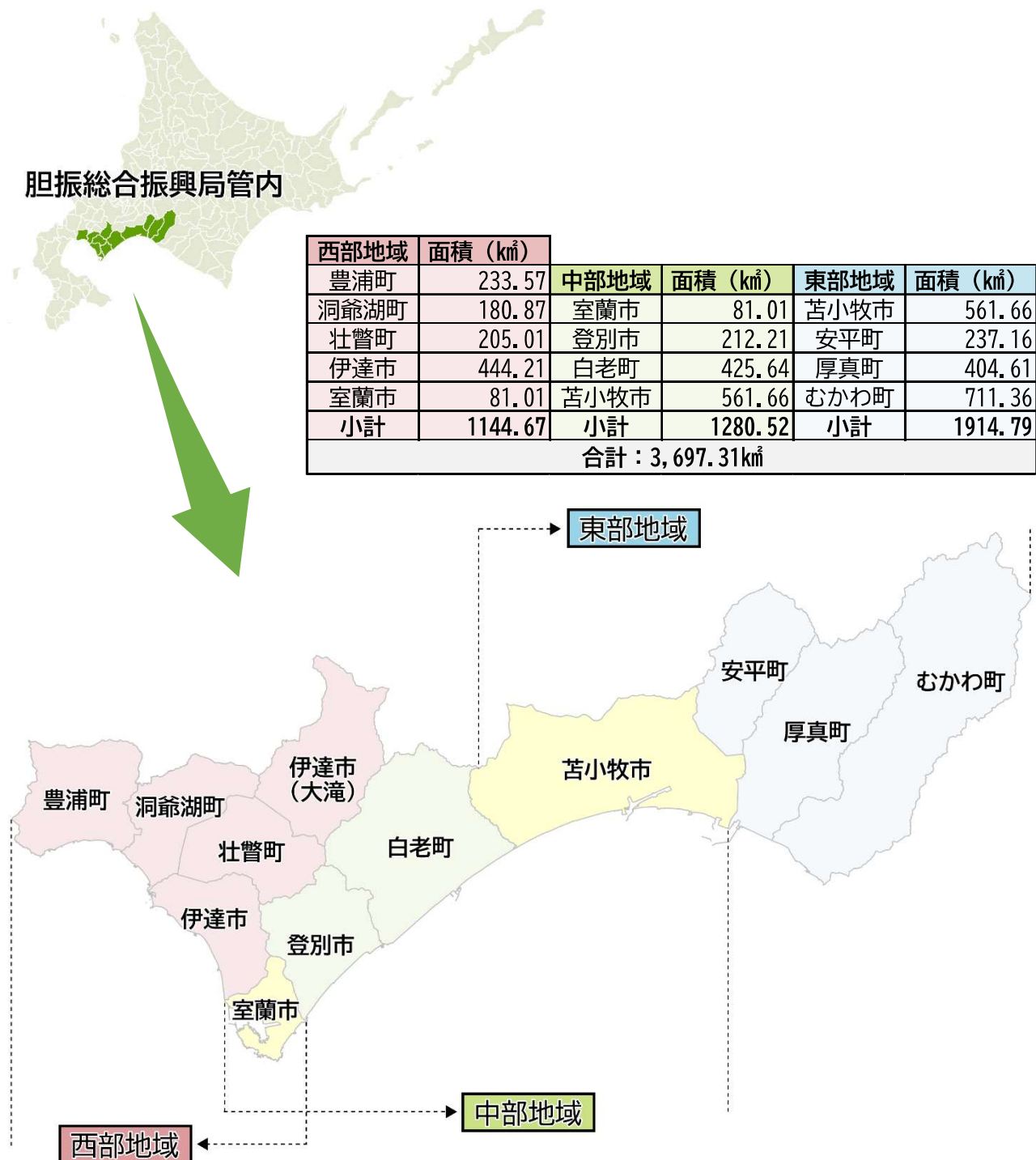


第3章 地域の概況

|3-1| 地勢・地理

(1) 北海道胆振地域の位置・面積

本地域は、北海道の中南部に位置し、総面積は約 3,697 km²と奈良県（約 3,691 km²）と同等程度の面積で、4市7町の市町で構成されています。



出典：令和4年全国都道府県市区町村別面積調（4月1日時点）_国土地理院

<https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO-title.htm>

国土数値情報「行政区画データ」_国土交通省をもとに作成

<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/ksj.html>

図 3-1 北海道胆振地域の各市町の位置・面積

(2) 地勢

本地域には、支笏洞爺国立公園に指定されているすぐれた景勝地があります。洞爺湖周辺では、有珠山、昭和新山などが、国際的にも重要な火山現象と火山地形を呈しています。登別周辺では、登別地獄谷、大湯沼、倶多楽湖などから構成される、温泉郷独特のたたずまいを見ることができます。

樽前山周辺では、樽前山と支笏湖が、森林と湖の静かな景観を形成しています。

そのほか、都市近郊の湖沼や海岸線などにも、国指定鳥獣保護区やラムサール条約登録湿地に指定されているウトナイ湖をはじめとして、美々川流域、地球岬周辺など、質の高い自然が広く残されています。



出典：基盤地図情報「数値標高モデル」_国土地理院

<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>

国土数値情報「行政区画データ」_国土交通省

<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/ksj.html>

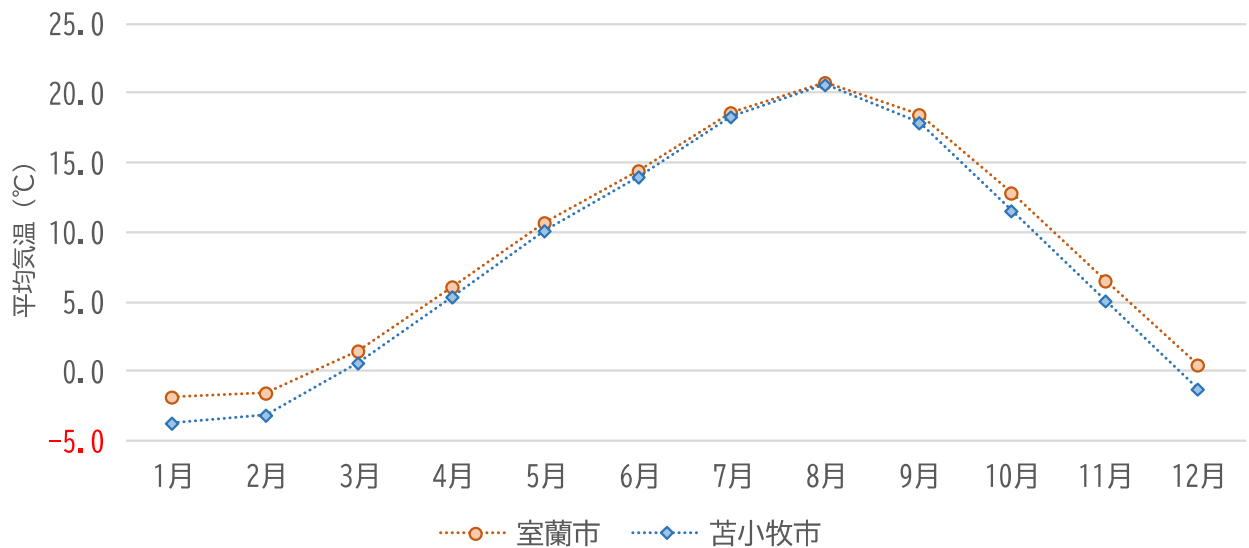
国土数値情報「鉄道データ」_国土交通省をもとに作成

https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N05-v2_0.html

図 3-2 本地域の地勢

(3) 気候

本地域は北海道の沿岸部にあり、比較的温暖な地域であり、夏と冬の気温差は 20℃程度と海洋性気候の地域です。また、登別市、伊達市北部、白老町、壮瞥町周辺にまたがる「オロフレ山系」は、道内でも雨量の多い地域であり、月間平均降水量が 8 月には 200mm を超える状況にもあります。

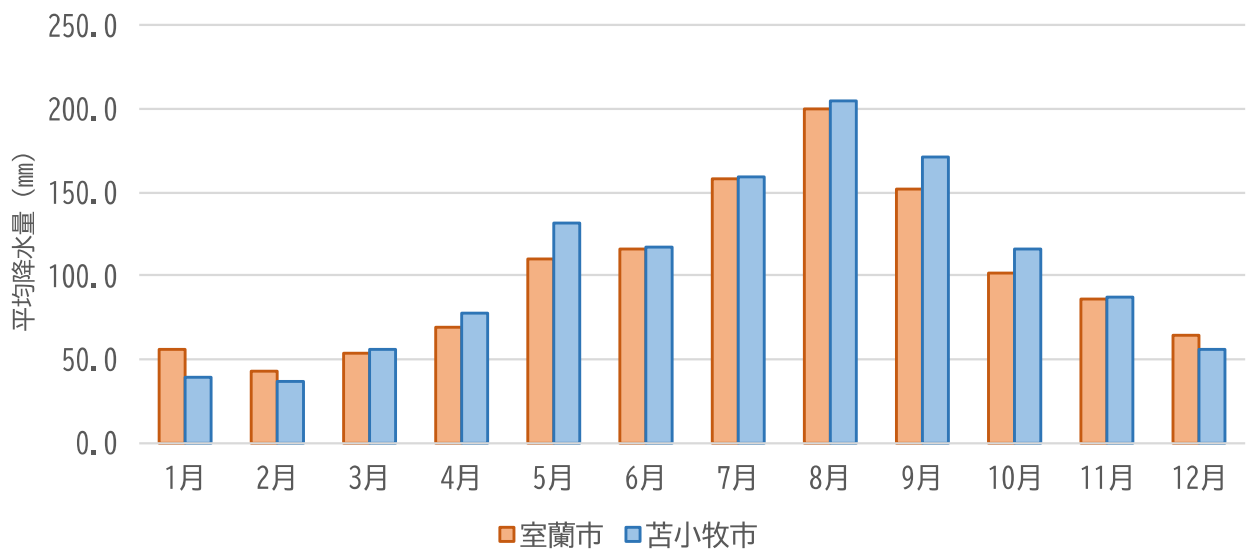


出典：観測開始からの毎月の値_気象庁をもとに作成

室蘭市 (https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/monthly_s3.php?prec_no=21&block_no=47423&year=2022&month=&day=&view=a1)

苫小牧市 (https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/monthly_s3.php?prec_no=21&block_no=47424&year=2022&month=&day=&view=a1)

図 3-3 平均月間気温 (過去 30 年間 (平成 5 年-令和 4 年) 平均)



出典：観測開始からの毎月の値_気象庁をもとに作成

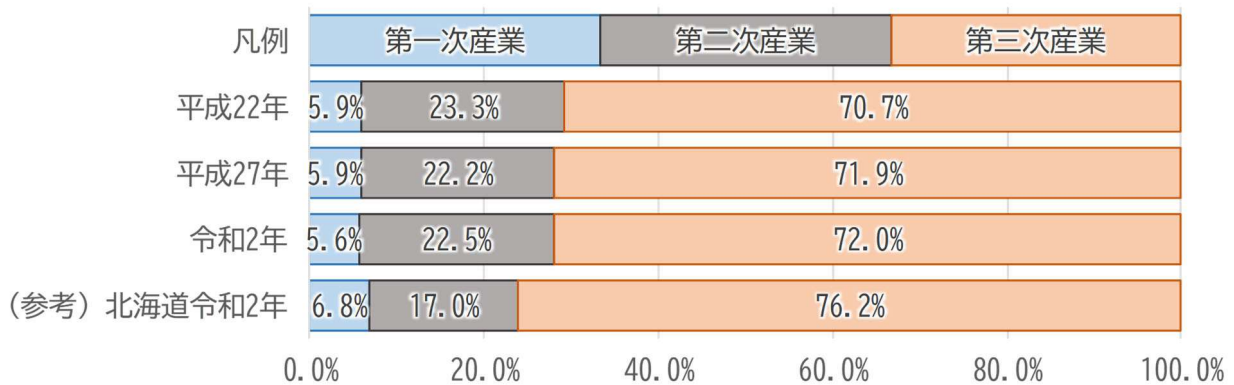
室蘭市 (https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/monthly_s3.php?prec_no=21&block_no=47423&year=2022&month=&day=&view=p5)

苫小牧市 (https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/monthly_s3.php?prec_no=21&block_no=47424&year=2022&month=&day=&view=p5)

図 3-4 平均月間降水量 (過去 30 年間 (平成 5 年-令和 4 年) 平均)

(4) 産業別就業者数

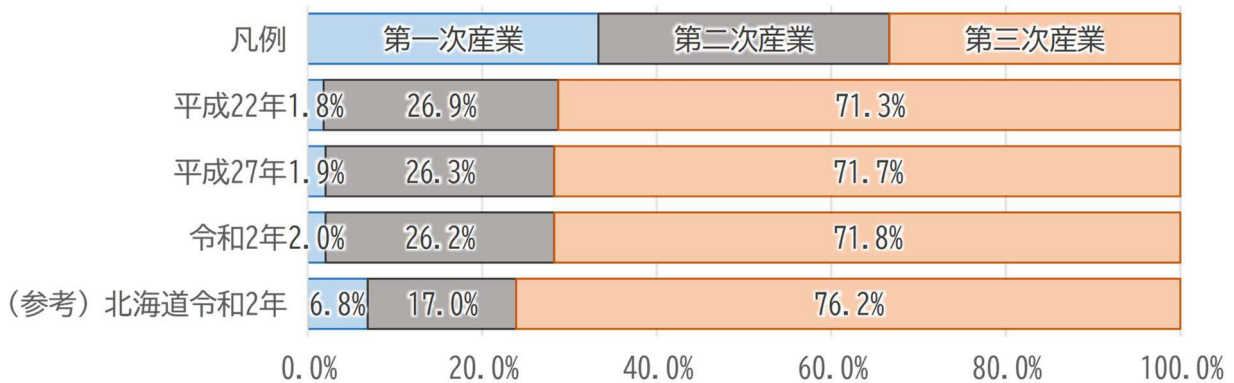
本地域は北海道全体と比較し、第二次産業の就業者数が多い状況です。また、西部・中部・東部の地域間で比較すると、洞爺湖温泉や登別温泉を有する西部・中部地域においては、東部地域と比較し、第三次産業の占める割合が高い傾向にあります。



出典：国勢調査（平成 22 年、平成 27 年、令和 2 年）_総務省統計局をもとに作成

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

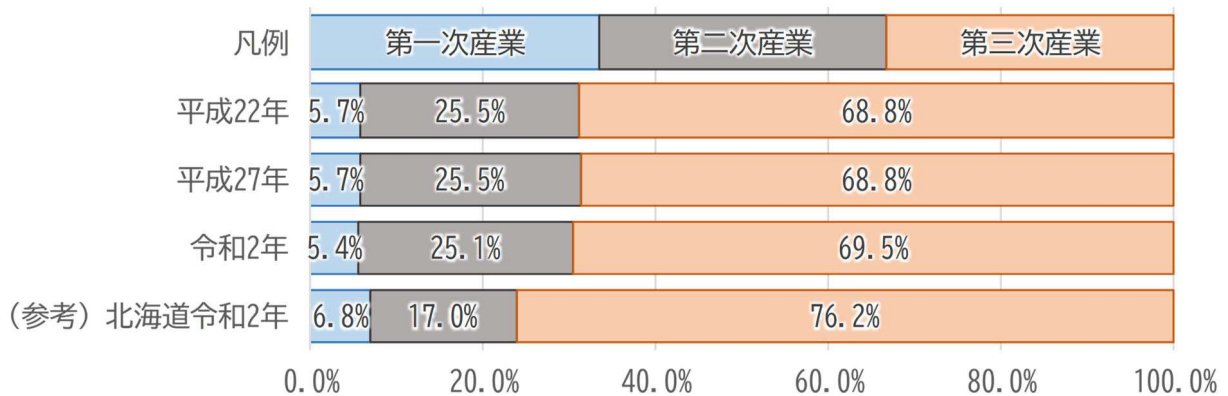
図 3-5 西部地域の産業別就業者数



出典：国勢調査（平成 22 年、平成 27 年、令和 2 年）_総務省統計局をもとに作成

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

図 3-6 中部地域の産業別就業者数



出典：国勢調査（平成 22 年、平成 27 年、令和 2 年）_総務省統計局をもとに作成

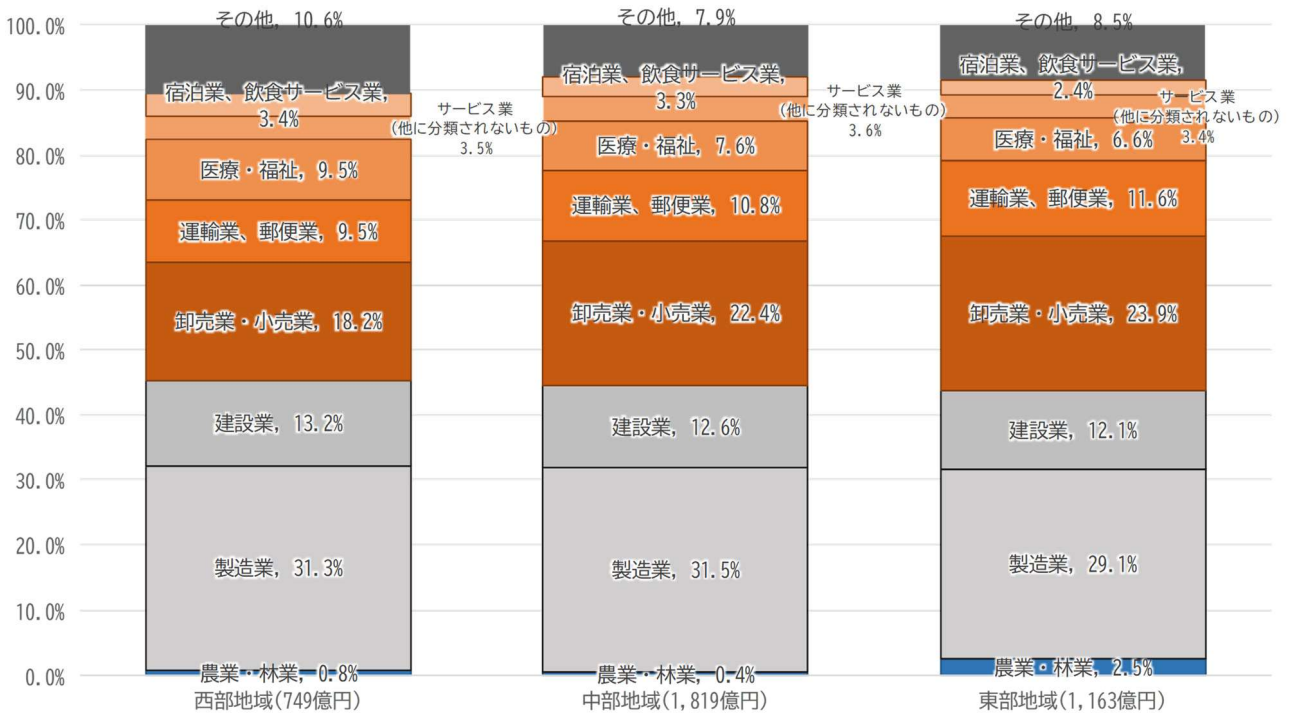
<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

図 3-7 東部地域の産業別就業者数

(5) 業種別売上高

本地域の業種別売上高は、平成 28（2016）年度時点で 2,088 億円となっており、産業別にみると、ものづくり産業が道内でも特に盛んな地域のため、第二次産業の製造業の割合が最も高く、次いで第三次産業の卸売業・小売業が高くなっています。

このほか、西部・中部地域においては洞爺湖温泉や登別温泉を有しているため、宿泊業、飲食サービス業の割合が東部地域と比較し高く、東部地域においては農業・林業の割合が西部・中部地域と比較し高い傾向です。



出典：地域経済分析システム「産業構造マップ-全産業-全産業の構造」_内閣府地方創生推進室をもとに作成

<https://resas.go.jp/industry-all/#/map/1/01230/2016/1/1/1/-/1/1/1/-/2012/2016>

図 3-8 各地域の産業構造

3-2 社会状況

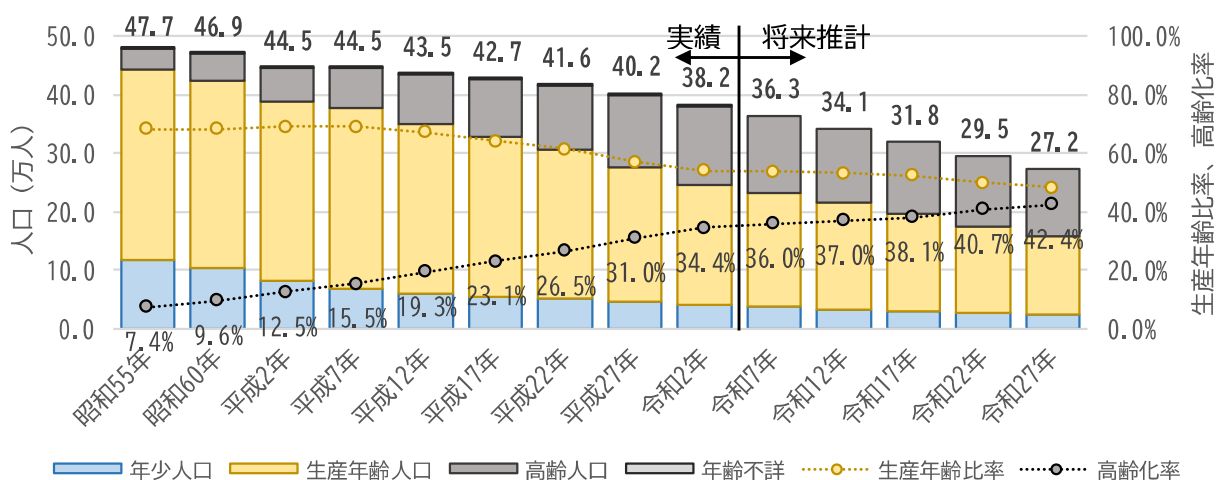
(1) 人口

(1)-1) 人口の推移

本地域の総人口は減少傾向で、令和 2（2020）年時点では 382,354 人となっており、今後も減少が続
き、本計画の最終年付近である令和 12（2030）年には 340,864 人まで減少するものと予測されていま
す。

また、高齢化率（65 歳以上人口の割合）は令和 2（2020）年時点で 34.4%となっており、令和 12
（2030）年では 37.0%まで上昇することが予測されています。

各地域では、全地域で人口は減少するものの、東部地域では比較的減少が緩やかであることが予測
されています。



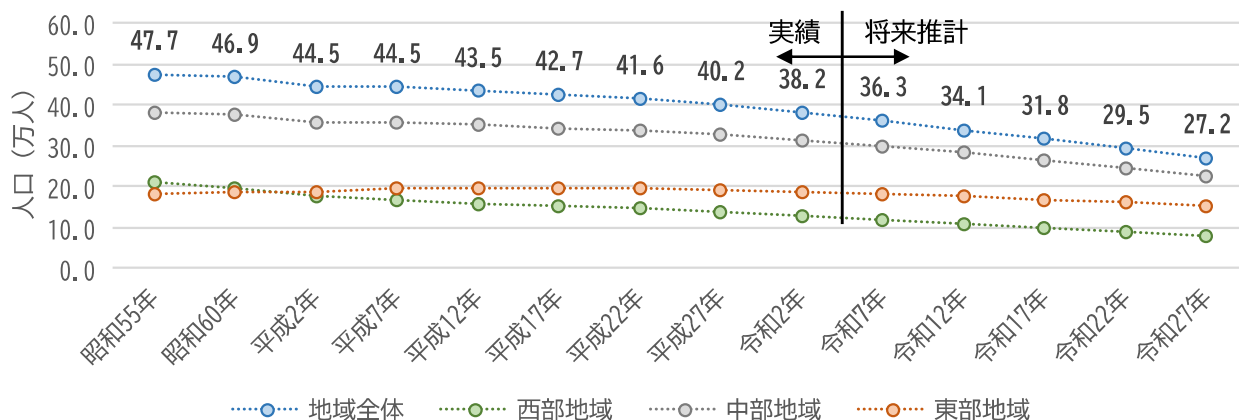
出典：国勢調査（昭和 55 年～令和 2 年）_総務省統計局

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

将来推計人口（平成 30 年推計）（令和 7 年～令和 27 年）_国立社会保障・人口問題研究所をもとに作成

<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>

図 3-9 地域全体の人口推移



出典：国勢調査（昭和 55 年～令和 2 年）_総務省統計局

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

将来推計人口（平成 30 年推計）（令和 7 年～令和 27 年）_国立社会保障・人口問題研究所をもとに作成

<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>

図 3-10 各地域の人口推移

本地域は昭和 55（1980）年から令和 27（2045）年にかけて全市町の人口が減少傾向にあり、とりわけ西部地域では洞爺湖町、中部地域では白老町、東部地域ではむかわ町が令和 2（2020）年から令和 27（2045）年にかけて約 5 割減少することが予測されています。

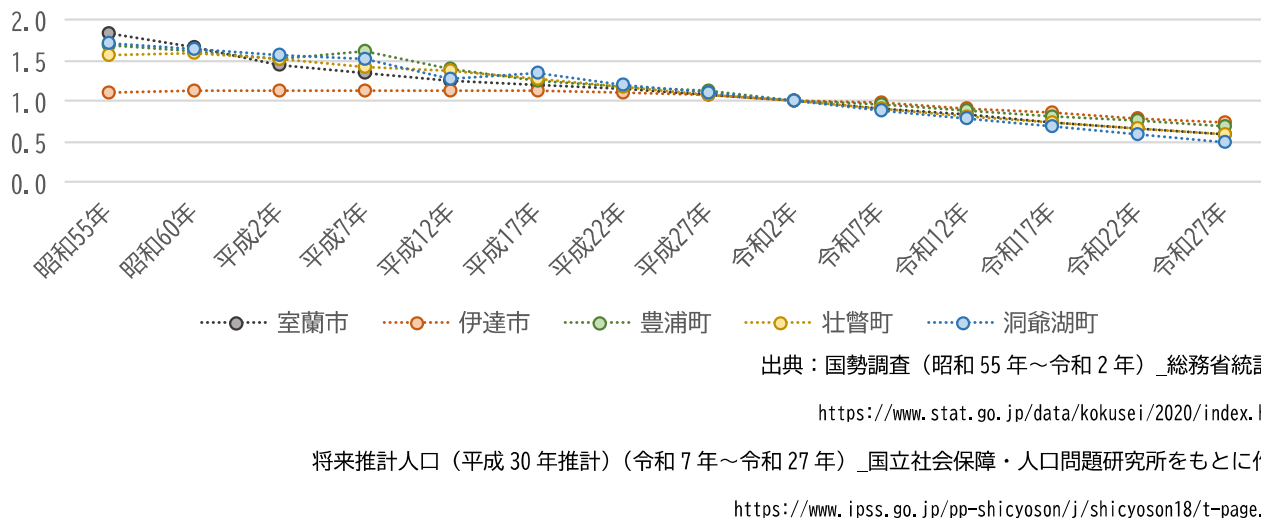


図 3-11 西部地域の市町毎の人口推移（令和 2 年人口を 1.0 とした場合の比率）

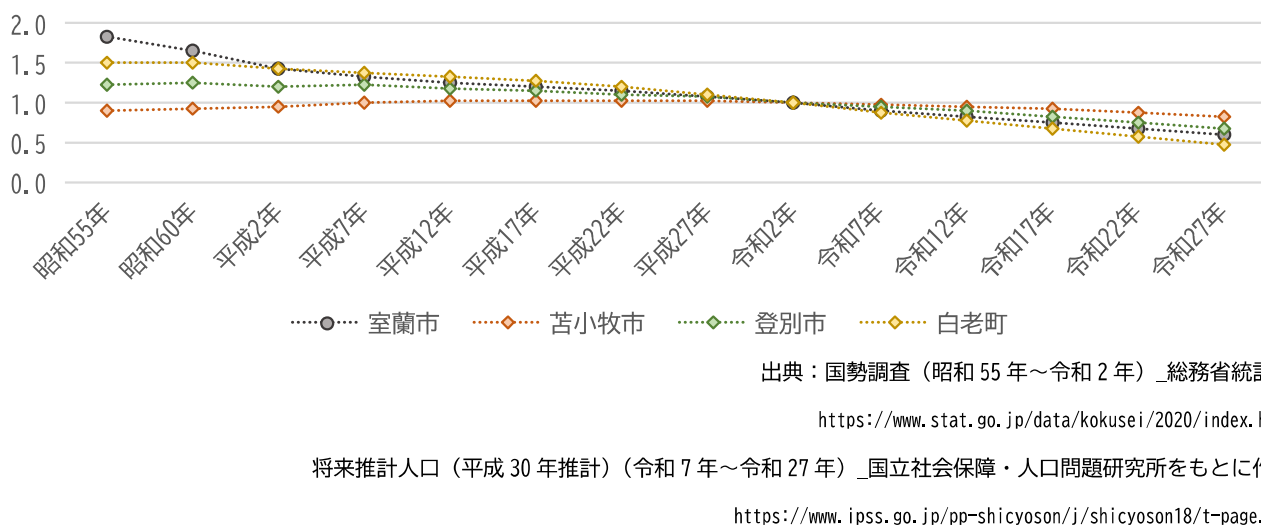


図 3-12 中部地域の市町毎の人口推移（令和 2 年人口を 1.0 とした場合の比率）

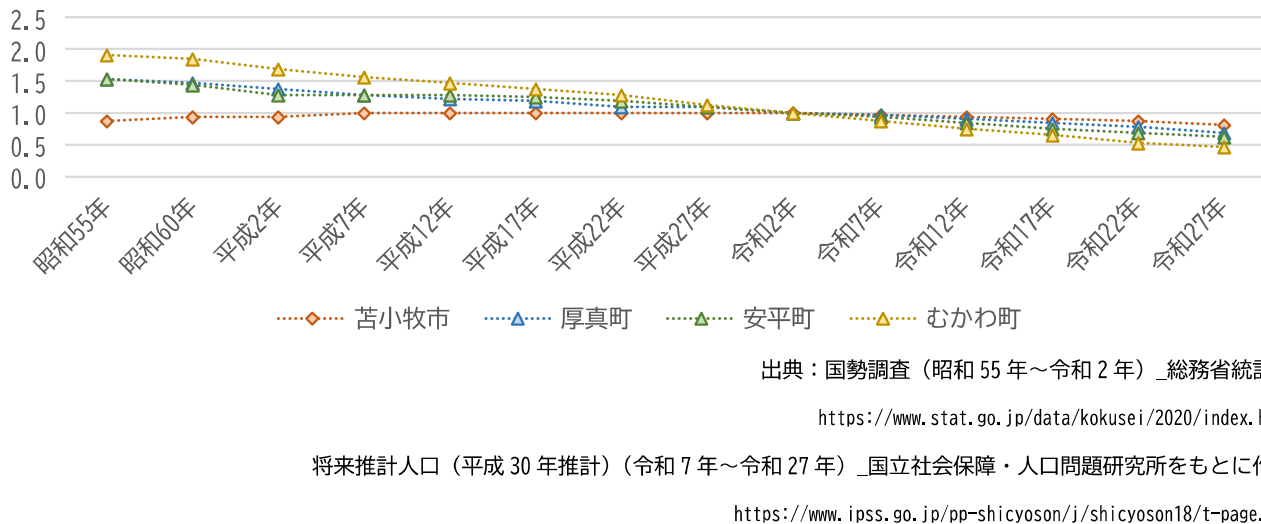
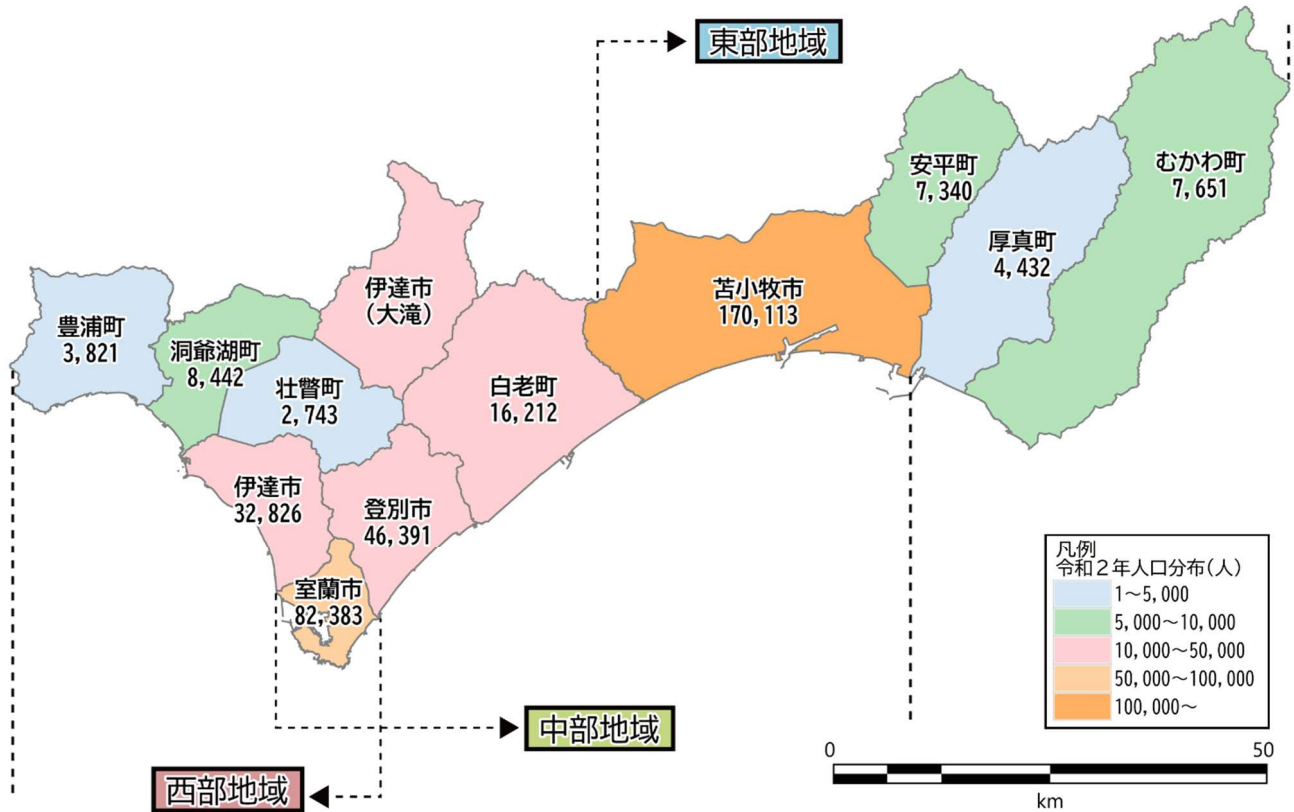


図 3-13 東部地域の市町毎の人口推移（令和 2 年人口を 1.0 とした場合の比率）

(1) -2) 人口の分布

本地域の総人口 382,354 人（令和 2（2020）年）のうち、中核都市群^{※6}である室蘭市 82,383 人、苫小牧市 170,113 人、登別市 46,391 人、白老町 16,212 人の計 315,099 人と約 82.4%が集中しているほか、地域中心都市^{※7}である伊達市 32,826 人と中核都市群・地域中心都市に約 91.0%が集中し、そのほかの市町に約 9.0%の 34,429 人が居住しています。



出典：国勢調査（令和 2 年）_総務省統計局

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

国土数値情報「行政区域データ」_国土交通省をもとに作成

<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/ksj.html>

図 3-14 地区・市町毎の人口

※6 中核都市と相互に結びつきが強く、一体的に都市機能を発揮する都市

※7 エリアの中で都市サービスや日常生活ニーズなどの面において、中核都市の機能を補完する市や町

500m メッシュ人口※8をみると、中核都市群である室蘭市、苫小牧市、登別市及び白老町の市街地に人口が集中しているほか、地域中心都市である伊達市の市街地にも人口が集積しています。そのほかの市町においては、広範囲に人口が居住しています。

令和 27（2045）年には全市町で人口減少が進み、より低密度に人口が分布することが推計されています。

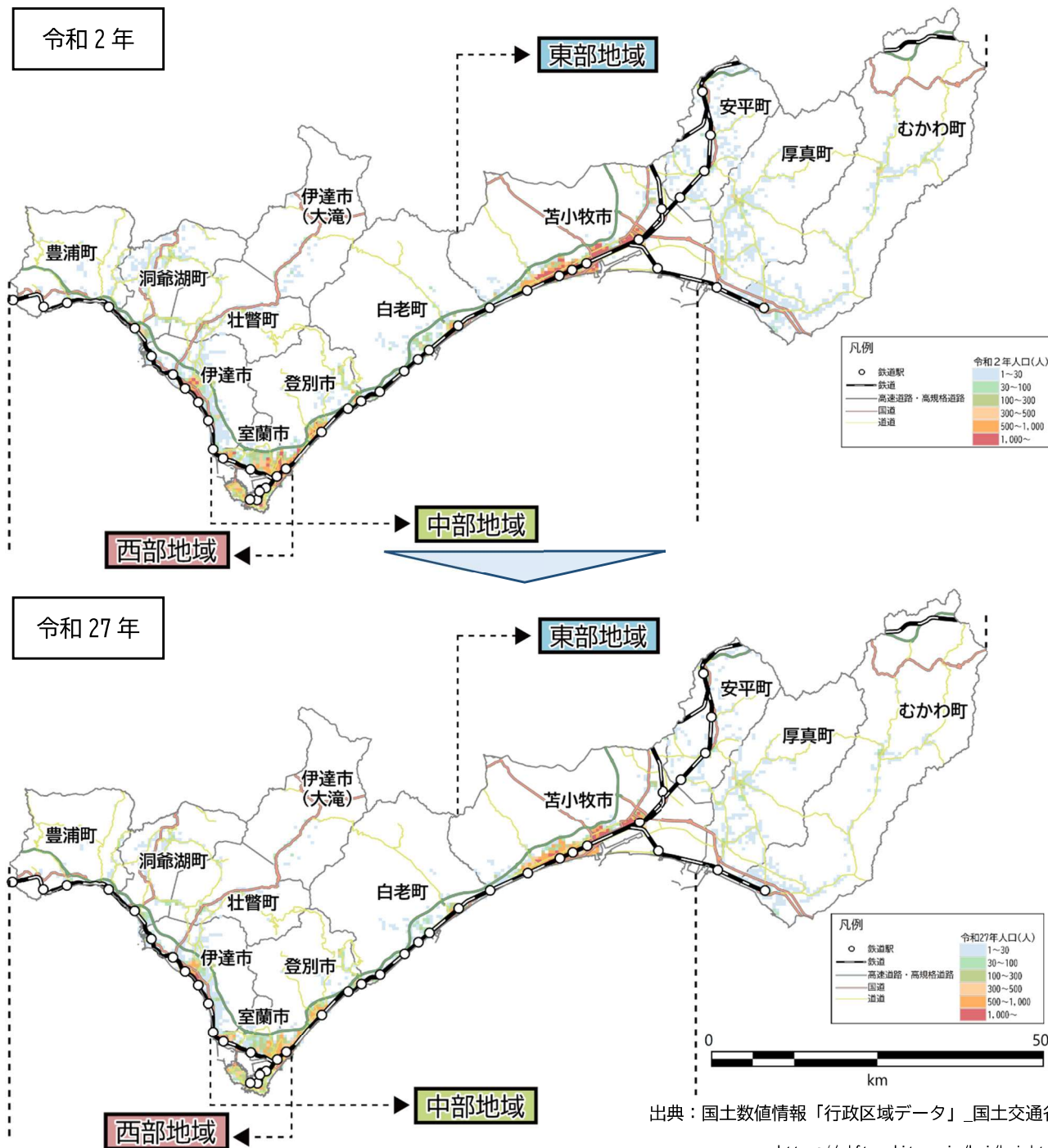
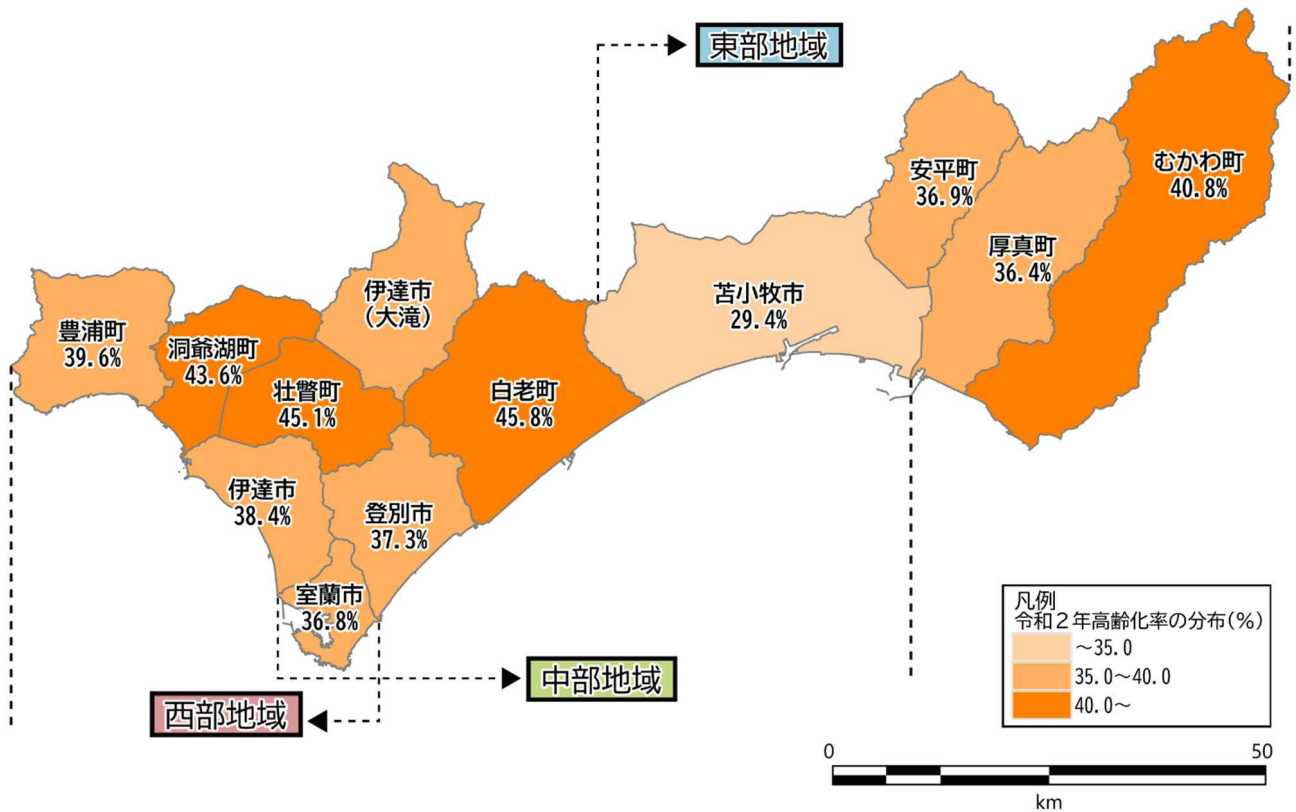


図 3-15 人口小分布の推移（500mメッシュ人口）

※8 緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目（メッシュ）の区域に分けて、それぞれの区域に関する人口データを編成したもの

(1) - 3) 高齢化率の分布

各市町の高齢化率（65歳以上人口の割合）は、苫小牧市で30%を下回っていますが、40%を超える町もあり、高齢化社会の進行が深刻化しています。



出典：国勢調査（令和2年）_総務省統計局

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

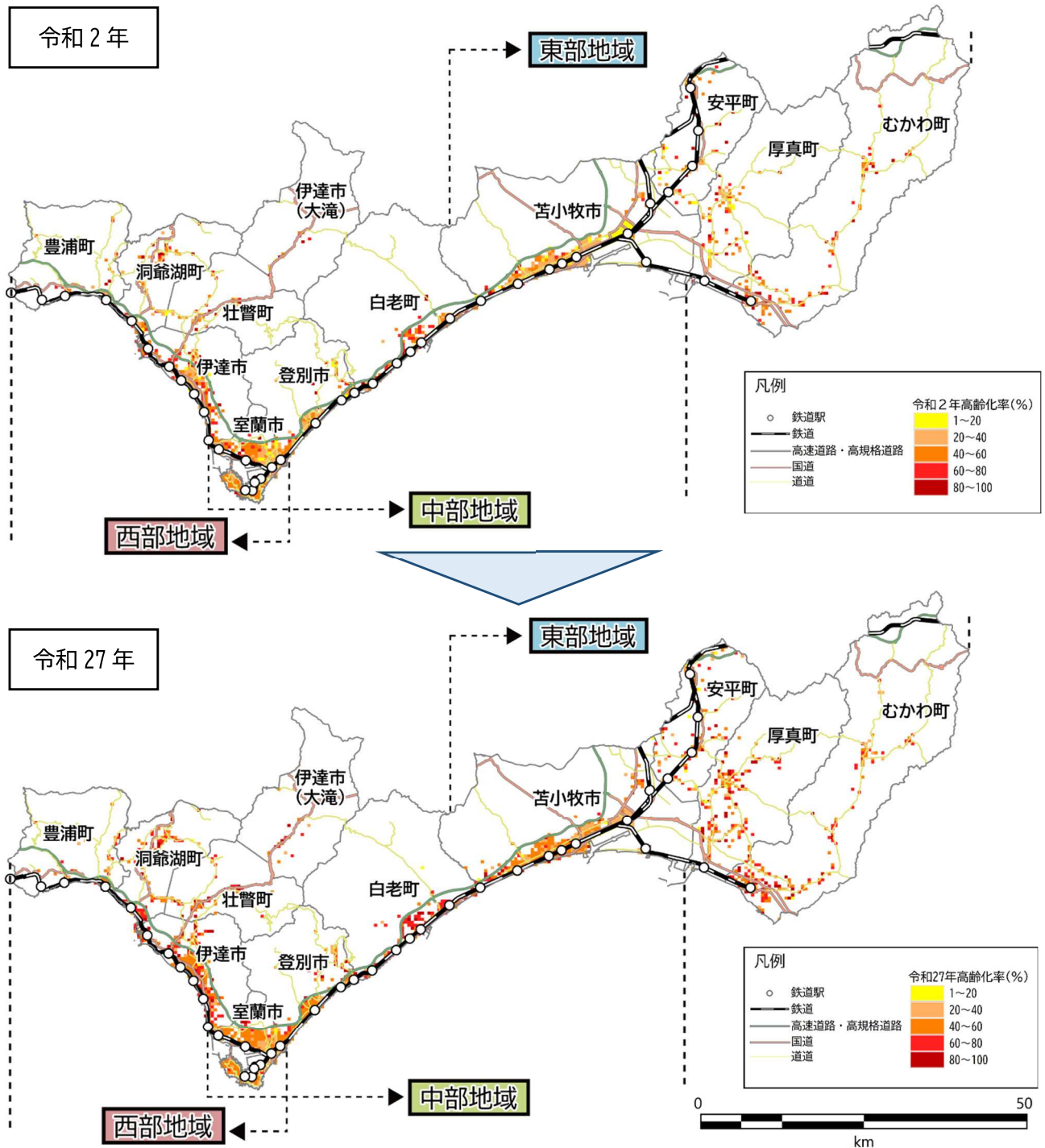
国土数値情報「行政区域データ」_国土交通省をもとに作成

<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/ksj.html>

図 3-16 市町毎の高齢化率

500m メッシュで高齢化率をみると、市街地は比較的高齢化率は低い傾向にあります。郊外部においては高齢化率が高いメッシュが広範囲に点在している傾向にあります。

また、令和 27（2045）年には市街地においても高齢化率が高くなる傾向にあり、郊外部においては高齢化に拍車がかかることが推計されています。



出典：国土数値情報「行政区域データ」_国土交通省

<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/ksj.html>

国勢調査（令和 2 年）_総務省統計局

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

将来推計人口（平成 30 年推計）（令和 27 年）_国立社会保障・人口問題研究所をもとに作成

<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>

図 3-17 高齢化率分布の推移（500mメッシュ人口）